

一念大利益(五帖第六通)

一念に、弥陀をたのみたてまつる行者には、無上大利益の功徳を
あたえたまうところを、和讃に聖人のいわく、五濁悪世の有情の、
選択本願信ずれば、不可称不可説不可思議の功徳は行者
の身にみたり、この和讃の心は、五濁悪世の衆生というは、一切
われら女人悪人のことなり、されば、かかるあさましき
一生造悪の凡夫なれども、弥陀如来を一心一向にたのみま
らせて、後生たすけたまえと申さんものをば、かならずすくいま
すべきこと、さらに疑うべからず、かように弥陀をたのみもうすも
のには、不可称不可説不可思議の大功徳をあたえますな
り、不可称不可説不可思議の功徳ということは、かざかぎりも

なき大功德だいこくとくのことなり、この大功德だいこくとくを、一念いちねんに弥陀みだをたのみもう

すわれら衆生しゅうじやうに、回向えこうしましすゆえに、過去かこ未来みらい現在げんざいの

三世さんぜの業障ごうじやう、一時いちじに罪消つみさえて、正定聚しやうじやうじゆの位くら、また等正覚とうしやうがくの位くら

などに定さだまるものなり、このころを、また和讃わさんにいわく、弥陀みだの

本願ほんがん信しんずべし、本願ほんがん信しんずるひとはみな、標取せうしゆ不捨ふしやの利益りやくゆえ、

等正覚とうしやうがくにいたるなりといえり、標取せうしゆ不捨ふしやというは、これも一念いちねんに

弥陀みだをたのみたてまつる衆生しゅうじやうを、光明こうみやうのなかにおさめとりて、信しんず

るころだにもかわらねば、すてたまわずというころなり、このほか

にいろいろの法門ほうもんどもありといえども、ただ、一念いちねんに弥陀みだをたの

む衆生しゅうじやうは、みなことごとく報土ほうどに往生おうじやうすべきこと、ゆめゆめ、疑うたがう

ころあるべからざるものなり、

あなかしこ　あなかしこ

一念大利益の大意

阿弥陀如来を疑いなく信じるものに、この上ない功德が与えられることを、親鸞聖人はご和讃に、「五濁悪世の有情の 選択本願信ずれば 不可称不可説不可思議の 功德は行者の身にみたり」とお示しになっています。

私たちは、一生、悪をつくって生きてゆかねばならない凡夫であります。一心に阿弥陀如来に帰命し、後生をおたすけくださいとおまかせする衆生を、かならずお救いくださることは疑いありません。このように疑いなく如来を信じる衆生に、はかりしれない功德をあたえてくださるから、過去・現在・未来にわたる罪のさわりもただちに消えて、浄土に生まれてさとりをひらく仲間に入るの

です。そのことをまたご和讃に、「弥陀の本願信ずべし 本願信
ずるひとはみな 撰取不捨の利益ゆえ 等正覺にいたるなり」と
お示しにしています。撰取不捨というのは、如来を信じる衆
生を光明の中におさめとしてお捨てにならないということです。

このほかさまざまの教えがあっても、弥陀をたのむ信心一つで
浄土に生まれることを、決して疑ってはなりません。